御　中

平成　　年　　月　　日

アイカ工業株式会社甚目寺工場
化成品カンパニー
品質管理グループ
問合わせ先 052-443-4811

ＭＳＤＳ（製品安全データシート）のご送付案内とお願い

拝啓

貴社いよいよご清栄のこととお喜び申し上げます。平素は格別のご厚情を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、労働省の有害性等情報通知制度に基づき、下記品目のＭＳＤＳを送付させて頂きます。お取り扱いをされます貴社関係者のすべての皆様方に当ＭＳＤＳをご参考にして頂き、有害性情報等についてご周知くださるようお願い致します。

尚、誠に恐れ入りますが、ＭＳＤＳを受領されましたら「受領書」欄にご記入のうえ、速やかに弊社返送先までＦＡＸにてご返送くださいますよう、併せてお願い申しあげます。

敬具

店所記入欄

店所名：　　　　　　　　　担当者：

ご送付日　　　　　　　平成　　年　　月　　日

ＭＳＤＳ送付先顧客様　　　　　　　℡

製 品 名

記入のうえ顧客様送付前に甚目寺工場生産企画課宛にＦＡＸお願いします。

ＭＳＤＳ受領書

製品名

返送先

アイカ工業株式会社甚目寺工場
生産企画部
FAXNo. 052-443-4825

平成　　年　　月　　日

貴社名：　　　　　　　ご担当部署：　　　　　　　ご担当者名：　　　　　　印

ご住所：　　　　　　　　　　　　　　℡：

ご記入のうえ切り離さず本紙をそのまま返送先までＦＡＸにてご返送下さいますようお願い申しあげます。

以下、余白

製品安全データシート

１製品及び会社情報

会社名　　アイカ工業株式会社
住　　所　　愛知県あま市上萱津深見 24 番地
担当部門　　化成品カンパニー　品質管理グループ
電話番号　　052-443-4811　FAX 番号　　052-443-4825
緊急連絡電話番号　　担当部門に同じ

整理番号　ＤＲＡ－００７０－５

作成日　２０００年　３月２９日
改訂日　２０１０年　４月１５日

製品の名称　　アイカアイボンＲＡ－ＧＬＰ

２危険有害性の要約

ＧＨＳ分類：急性毒性／経口　　区分５
生殖毒性　　区分 1B
標的臓器／全身毒性（単回暴露）　　区分１（中枢神経系、視覚器、全身毒性、神経系）
標的臓器／全身毒性（反復暴露）　　区分１（中枢神経系、視覚器、神経系）
※上記で記載がない危険有害性は、分類対象外か分類できない。

ＧＨＳラベル要素
絵表示：

注意喚起語：危険
危険有害性情報：飲み込むと有害のおそれ
生殖能または胎児への悪影響のおそれ
臓器（中枢神経系、視覚器、全身毒性、神経系）の障害
眠気およびめまいのおそれ
呼吸器への刺激のおそれ
長期ないし反復暴露による臓器（中枢神経系、視覚器、神経系）の障害

注意書き：

【予防対策】
・　すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
・　使用前に取扱説明書を入手すること。
・　保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用し、換気を充分行うこと。
・　ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
・　容器を密閉しておくこと。

【対応】
・　火災の場合には適切な消火方法をとること。
・　吸入した場合、空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
・　飲み込んだ場合、無理して吐かせないこと。
・　眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを容易に外せる場合には外して洗うこと。

３組成及び成分情報　化学名　：アクリルエマルジョン系プライマー

成分及び含有量

成　分	含有量［%］	CAS No.
アクリル樹脂	４０～５０	
メタノール	１～２	67-56-1
水	４０～５０	

労働安全衛生法(第５７条２)対象通知物質：メタノール
ＰＲＴＲ法　：該当せず

４応急措置　目に入った場合：清浄な水で１５分間以上洗眼し、眼科医の診断を受ける。
皮膚に付着した場合：付着した衣服，靴を脱ぎ、付着した部分を水または微温湯を流しながら、洗浄する。
吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、安静，保温に努め、医師の診断を受ける。
飲み込んだ場合：水で口の中をよく洗い、直ちに医師の診断を受ける。
無理に吐き出させないようにする。

５火災時の措置　特定の消火方法：このもの自体には可燃性はないが、水分が蒸発した後の乾燥物は可燃性である。燃焼の際は、火元の燃焼源を断ち、消火剤を使用して消火する。延焼の恐れのないよう水スプレーで周辺を冷却する。消火作業は風上から行い。
消火を行う者の保護：保護衣を着用するほか、状況によっては、不浸透性手袋，有機ガス用防毒マスク等の保護具を着用する。
消火剤：水［○］，二酸化炭素［○］，泡［○］，粉末［○］，乾燥砂［○］
その他（　強化液　）

６漏出時の措置　人体に対する注意事項：作業の際には長靴，手袋，保護眼鏡などの保護具を着用する。
環境に対する注意事項：流路を毛布，土嚢等を用いてせき止め、多量流出の場合はバキューム等で汲み上げ、又、少量流出の場合はおが屑，土砂，パーライト等を混ぜ、モルタル状として凝固回収する。
除去方法：少量の場合は、紙や布でふき取り焼却する。多量の場合は、火花の出ないシャベル等で密閉できる容器にすくい取り、焼却する。
※多量に河川、湖沼へ流出した場合は、必要に応じ都道府県市町村の公害関連部署等に直ちに連絡を取る。

７取扱い及び保管上の注意　取扱い：取扱いは、換気の良い場所で行う。
目，皮膚への接触を防止するため、状況に応じ保護眼鏡，保護手袋などの保護具を着用する。
揮発するメタノールを許容濃度（暴露防止措置の欄参照）以下に保つ。
混合接触させてはならない物質：知見なし。
容器包装材料：容器は破損、腐食、割れ等のないものを使用する。
保　管：凍結，直射日光を避け、屋内で保管すること。
保管時の温度は、５℃以下あるいは３５℃以上とならないようにする。
皮張り防止のため、使用後は密封して貯蔵する。

８暴露防止及び保護措置　設備対策：蒸気，ミストが発生する場合には、局所排気装置などの排気のための装置を設置する。
管理濃度：メタノール　２００ｐｐｍ（労働省告示第２６号　平成７年３月２７日）
許容濃度：日本産業衛生学会（2004）　メタノール（ＴＷＡ）　200ppm(260 mg／ｍ^3)
ＡＣＧＩＨ（2004）　メタノール（ＴＬＶ－ＴＷＡ）　200ppm(262 mg／ｍ^3)
ＯＳＨＡ（1999）　メタノール（ＰＥＬ－ＴＷＡ）　200ppm(260 mg／ｍ^3)
保護具　：呼吸器の保護具：状況に応じ、有機ガス用防毒マスクを着用する。
手の保護具：状況に応じ、ＰＥ，ゴム製等の非浸透性の手袋を着用する。
目の保護具：状況に応じ、保護眼鏡を着用する。
皮膚及び身体の保護具：状況に応じ、長袖作業衣等を着用する。

９物理及び化学的性質
外　　観：乳白色液体
全固形分：５０％
ＰＨ　：６～８
粘　　度：2Pa･s
沸　点：約１００℃（水として）
凝固点：約０℃（水として）
水溶性：水と任意に混合する

１０安定性及び反応性
安定性：通常の取扱い条件においては安定。
危険有害反応可能性：なし
避けるべき条件：なし
混触危険物質：
危険有害な分解生成物：知見なし。

１１有害性情報
急性毒性：メタノール

経口ヒト	ＬＤＬ０	３４２９mg／kg [5)]
吸入ヒト	ＴＣＬ０	３００ppm [5)]
経口ラット	ＬＤ５０	５８２８mg／kg [5)]
吸入ラット	ＬＣ５０	６４０００ppmg [5)]

皮膚腐食性/刺激性：含有する有機溶剤は皮膚刺激性がある。
眼に対する重篤な損傷/刺激性：含有する有機溶剤は眼に対し、刺激性がある。
呼吸器感作性又は皮膚感作性：皮膚に対しても繰り返し接触すると、皮膚の脱脂作用がある。
生殖毒性：含有する有機溶剤は生殖能または胎児への悪影響のおそれがある。
特定標的臓器/全身毒性－単回暴露：含有する有機溶剤は臓器（呼吸器、肝臓、中枢神経系、腎臓）の障害がある。
特定標的臓器/全身毒性－反復暴露：含有する有機溶剤は長期ないし反復暴露による臓器（呼吸器、神経系）の障害がある。
その他の情報：含有する有機溶剤は水生生物に毒性がある。

１２環境影響情報
漏洩時、廃棄などの際には注意を守ること。
生態毒性：知見なし
残留性/分解性：知見なし
生体蓄積性：知見なし
土壌中への移動性：知見なし
他の有害影響：魚毒性：河川等に流出した場合には、樹脂の粘着による呼吸困難のため、魚類が死亡する場合がある。

メタノール	マス	ＴＬｍ（48hr）	８０００ppm [6)]
	ウグイ	ＬＤ１００	１７０００ppm、２４時間 [6)]

１３廃棄上の注意
残余廃棄物：廃棄物の処理及び清掃に関する法律の分類では廃油と廃プラスチック類の混合物で、焼却する場は、焼却設備を用いて少量ずつ焼却する。又、産業廃棄物として処理する場合は、許可を受けた処理業者に委託する。
洗浄水等の廃水は凝集沈殿，活性汚泥等の処理により清浄にしてから排出する。
水質汚濁防止法に御注意下さい。
汚染容器・包装：内容物を完全に除いた後処分する。処理は法規の規定に従って行う。

１４輸送上の注意
運搬に際しては容器の漏れのないことを確かめ、転倒，落下，損傷がないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。
参考資料：日本エマルジョン工業会編「合成樹脂エマルジョンの輸送事故対策指針」

１５適用法令
労働安全衛生法：有機則（第２種有機溶剤）
第５７条２通知対象物質　メタノール
室内で使用する場合は作業環境測定法に従う必要があります。
ＰＲＴＲ法：該当せず

１６その他の情報　記載内容は、現時点で入手できた資料や情報に基づいて作成しておりますが、記載のデータや評価に関しては情報提供であり、いかなる保証もなすものではありません。
また、記載事項は通常の取扱いを対象としたものですので、特別な取扱いをする場合には、新たに用途・用法に適した安全対策を実施の上、お取扱い願います。

引用文献

1 １３１９７の化学商品　化学工業日報社
2 化学物質の危険，有害便覧　中央労働災害防止協会
3 知っておきたい職場の化学物質　中央労働災害防止協会
4 製品安全データシートの作成指針　日本化学工業協会
5 REGISTRY OF TOXIC EFFECTS OF CHEMICAL SUBSTANCES:NIOSH (1985～1986)
6 K.VERSCHUEREN:HANDBOOK OF ENVIRONMENTAL DATA ON ORGANIC CHEMICALS (1983)
7 産業中毒便覧　後藤稠也編　医歯薬出版㈱ (1977)
8 化学防災指針　日本化学会編 (1980)
9 日本化学物質　安全・情報センター　特別資料　№.６２ (1992)
10 FOOD CHEM TOXICOL 1989;27;545-548
SAILLENFAIT AM:THE EFFECTS OF MATERNALLY INHALED FORMALDEHYDE ON EMBRYONAL AND FOETAL DEVELOPMENT IN RATS.
11 水性生物と農薬　急性毒性資料編　田中二良　㈱サイエンティスト社 (1978)